The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	情報リテラシー教育の再考 ： 図書館目線から離れるには
Author(s)	久保山, 健
Citation	
Version Type	AM
URL	https://hdl.handle.net/11094/26509
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

情報リテラシー教育の再考

～図書館目線から離れるには～

OSAKA UNIVERSITY
Live Locally, Grow Globally

久保山　健 (KUBOYAMA Takeshi)
大阪大学附属図書館 利用支援課（サービス企画主担当）

<November 29, 2013>

学術情報リテラシー教育担当者研修

会場：　国立情報学研究所

公開版

(0) はじめに

■到達目標

- 大学教育、ICTを巡る環境変化の中で、情報リテラシー教育のあり方を考える。

- 受講者の職場における対応策を考え、次の行動につなげる。

(0) はじめに

■本講義の要点

「情報リテラシー教育の再考」

◆大学教育との距離の縮め方を考える

-- 顔の見える関係から問題意識・関心の共有 --

◆ユーザインタフェースを改めて考える

-- フロントにいる人も使われやすいデザインを --

◆学生に伝える内容を考える

-- 相手目線でトライ・アンド・エラーを --

(0) はじめに

■講師／職場のバックグラウンド

- 図書館スタッフ：

  授業一コマでの「図書館活用法入門」

  論文の探し方講習など

- Teaching Assistant：学習相談、講習など

- 教員と図書館スタッフ：

  レポート講座

  論文の書き方・読み方

  プレゼン入門：話す基本技術

(0) はじめに

- 多言語多文化理解のための共同学習スペース

・2012年11月オープン
・学びのスタイルの多様化
・国際化

・個別／グループインタビュー
※「結果」より「過程」

GLOBAL COMMONS
OSAKA UNIVERSITY LIBRARY

(0) はじめに

■情報リテラシー教育のステレオタイプ

- 図書館は便利なんだから、しっかり使って勉強してね。
- OPACも文献DBも、便利なんだからちゃんと覚えてね。
- GoogleよりWikipediaより、図書館ツールよ。
- 前方一致とか論理演算とか使って、ちゃんと調べてね。
- 高価なDB、利用実績も上げなきゃ。

＜皆さんの悩み(推測)＞

- 教員等との連携
- 学生を飽きさせないように；内容
- プレゼン技術向上；スキルの引継ぎ
- 効果的な広報

(1)大学教育との距離の縮め方

■ステークホルダー

- 学生

  学習、知識やスキルの習得

  卒業～キャリア形成

- 教員

  教育、知識やスキルの伝達・習得を促す

※学生や教員にとっての「価値」とは何か

(1)大学教育との距離の縮め方

■プレイヤー

- 共通教育部門（各教員・各種サポート室）
- 学生（まずは図書館によく来る／図書館に近い活動をしている層）
- 各部局（各教員）
- 情報系の部署
- 国際交流の部署
- 学生支援／キャリア支援の部署

(1)大学教育との距離の縮め方

■教育との距離の縮め方（例）

(1) 講習会などの商品化・事業化

問題意識を共有できる教員と協働

話題の共通性；話題の広がり

(2)授業、講習会、新コモンズのグループインタビュー、パンキョー革命、

→「顔の見える関係」

(1)大学教育との距離の縮め方

(3)接点を増やして、価値観や方向性の共有

(*)教員や学生の行動や考えていることって分かる？
分からないとして、ではどうする？
まずは雑談から？
他のイベントで接点作りも。

（2013.1～）1-2回生によるプレゼンイベント、クラス代表懇談会、学生による本の出版企画ショセキカに協力・阪大生の著者トーク共催、学生による本の展示

(4)グローバル・コモンズ

…さえもマーケティング・ツール!?

(1)大学教育との距離の縮め方

■グローバル・コモンズ開設時(2012.11)

（情報リテラシー教育とは直接関係ないけども…）

○意識したのは「自分目線の排除」

○実感したのは「好みの多様さ」(テーブルやイスなど)

・具体的には、テーブル、イスの形、座りたい場所など

(1)大学教育との距離の縮め方

■さらに、授業で必要とされる「サービスメニュー」の共同開発などに発展すれば…

■大事なのは

「声かけ」

「小さな機会を活かす」

(2) ユーザインタフェースを考える

- ディスカバリ・サービス、次世代型OPACの広がり
- しかし…
  - それ以前に種々の検索サービスに「マニュアル」がある?　見る?
  - 説明が必要なツールを提供している?

→何が変わるか

・やめる；　コアユーザは来るだろうから続ける

・深い内容に重点を移す；　見せ方を変える

・内容を変える

(2) ユーザインタフェースを考える

■皆さんへの期待

○皆さんの立場＝ユーザ対応のフロント

○OPAC等検索サービス改善の[後方]支援

・システムのことよく分からない?

→情報の重要度、使いやすさはどう?

・使い方を教えなくてよいデザイン

(*)その上で漏れたところは何らかの方法で

(2) ユーザインタフェースを考える

■質問

○情報の重要度、説明を減らすための見せ方の観点で、次の画面例の問題点を考えよう。

http://opac.library.osaka-u.ac.jp/opac/opac_details.cgi?lang=0 | osaka-u.ac.jp

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

[4 / 13] 前の書誌 次の書誌

SEの教科書 / 深沢隆司著

(技評SE選書 ; 001)

メール送信 EndNote/EndNote Web出力

詳細を非表示

版	完全版
出版者	東京 : 技術評論社
出版年	2009.11
大きさ	349p : 挿図 ; 19cm
別書名	表紙タイトル:The pragmatic manual for system engineer 異なりアクセスタイトル:SEの教科書
一般注記	『SEの教科書』『SEの教科書 2』に加筆・修正し、再構成したもの
著者標目	深沢, 隆司 <フカサワ, タカシ>
件 名	BSH:情報産業 BSH:情報処理技術者 NDLSH:システム開発 NDLSH:システムエンジニア NDLSH:プロジェクト管理
分 類	NDC8:007.3 NDC9:007.35 NDC9:007
本文言語	日本語
コード類	書誌ID=2004219602 NCID=BB00294387 CiNii

巻 次	配架場所	請求記号	登録番号	状 態	利用注記	コメント	ISBN	刷 年	予約/取寄	複写
	総合図-A棟2階 キャリア支援図書	007.35/FUK	10301681762	貸出中[2012.10.09返却期限]			9784774140162		申込み	

http://opac.library.osaka-u.ac.jp/opac/opac_details.cgi?lang=0 osaka-u.ac.jp

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

[4 / 13] 前の書誌 次の書誌

SEの教科書 / 深沢隆司著

(技評SE選書 ; 00

EndNote/EndNote Web出力

詳細を非表示

版	完全版
出版者	東京 : 技術評論社
出版年	2009.11
大きさ	349p : 挿図 ; 19cm
別書名	表紙タイトル:The pragmatic manual for system engineer 異なりアクセスタイトル:SEの教科書
一般注記	『SEの教科書』『SEの教科書 2』に加筆・修正し、再構成したもの
著者標目	深沢, 隆司 <フカサワ, タカシ>
件 名	BSH:情報産業 BSH:情報処理技術者 NDLSH:システム開発 NDLSH:システムエンジニア NDLSH:プロジェクト管理
分 類	NDC8:007.3 NDC9:007.35 NDC9:007
本文言語	日本語
コード類	書誌ID=2004219602 NCID=BI

①書名等の見せ方
- 見出しは全て同じフォント
- 詳細情報が同じフォントで、画面の上部、全体を占めている。
- 情報の重要度は?

②使用意図不明の記号
- スラッシュは一般的に“or”を示すのでは。
- まさか、”スラッシュより前が書名”と説明!?
- 書籍の特定に必要な項目をコンパクトに出す。

③所在情報の位置
- 重要度”高”の情報が下部に
- さらに重要度で文字の大きさなど変えられないか。

巻 次	配架場所	請求記号	登録番号	状 態	利用注記	コメント	ISBN	刷 年	予約/取寄	複写
	総合図-A棟2階 キャリア支援図書	007.35/FUK	10301681762	貸出中[2012.10.09返却期限]			9784774140162		申込み	

(2) ユーザインタフェースを考える

■ 文献データベースの可視性を高めるために…

例えば、

・日経新聞電子版 Windows8 専用アプリ

・蔵書検索 スマホアプリ

のような発想は？

ェースを考える

どれが見るべき情報か
伝達しないといけない？

本の並びはどこで折り返しているか
説明しないといけない？

(2) ユーザインタフェースを考える

■ディスカバリ・サービスが広がっても

○画面上/Webサイト上のナビゲーション

○新デバイス（タブレット端末）への対応

○スタッフは一定以上の詳しさが必要

○見つけられやすくするためのデータ管理

○利用分析、調査、改善

○個別の検索ツールは当面続く

○利用のサポートは続く

「皆さんの主体的な改善は続く」

(3) 伝える内容を考える

■ 大学/大学図書館の環境、ICT環境が変わってきて、伝えることは何か

○図書館事情によるものは減少すべき（特に、初年次、必修科目等では）

（詳細検索、論理演算、請求記号の意味…）

○講習会に[わざわざ]来てもらえるか、図書館の使い方に興味を感じてもらえるかと、
あえて問い直す必要はないか。

○図書館が行う教育活動はどうあるべきか。<u>各大学の教育改革の文脈で</u>考える必要があるはず。

(3) 伝える内容を考える

■ 例えば…プレゼン入門：話す基本技術（講習）

時期	回数	実人数（のべ）	有用度評価(*)	
2012.2	基本編2回×4	31 (58)	4.50	
2012.9	基本編2回×2＋発展編1回	15 (33)	4.56	発展編追加
2013.2-3	基本編2回×6＋発展編1回×2	40 (80)	4.64 オール5：6コマ（14コマ中）	他地区でも開催
2013.5	基本編2回×1＋発展編2回×1	17 (35)	4.68 オール5：最終回（6名）	授業期に開催、発展編2回化
2013.9	基本編2回×2＋発展編2回×1	15 (48)	4.79 オール5：3コマ（6コマ中、7-8名）	

(*) 5(非常に有益)～3(普通)～1(役に立たない)

(参考資料*1)

(3) 伝える内容を考える

■情報リテラシー教育に…

○各大学の教育改革の文脈で、図書館での情報リテラシー教育が再考される機会があるはず

○「教育改革の文脈で」何か考えている教員がいらっしゃいませんか？　いなかったら、、、

探しますか？　自分の路線で進めますか？

※”プレゼン”の集客力・必要度のおかげ？

では、”CiNii”の必要度を上げるために何を？

(3) 伝える内容を考える

■その場面で図書館目線を排除できるか

○<u>インストラクショナル・デザイン</u>

学習目標と動機付けを整理する　(参考資料*2)

特に初年次、必修科目等では、内容の整理。

○細かい例：読みがなで検索できることを1回生に教えるか

知らない4回生がいましたよ。必要性は？

どのような検索行動を取っているか質問したことは？

(3) 伝える内容を考える

■その場面で図書館目線を排除できるか

○コアユーザをターゲットに？
「切り抜ける(習得でなく)」授業を変えてもらう?

○個別対応、定例化などによって、ニーズを引き出す努力。
（例: 蔵書検索端末の横で札でも立てて…）

○個別のDBを使いこなす能力；文書にまとめる能力；伝える能力…

(3-補) 顧客に分かりやすい言葉

■例：「OPAC」

○即座に通じるか

○覚えてもらうことが「情報リテラシー教育」か

○登場後、20年ほど経過するが、未だに定着せず

→「蔵書検索」「パソコンで検索」などは？

（2013.10.10付け朝日新聞. 教育欄の「成人力 日本は得点差最小」には「図書館の検索システム」）

(参考資料*3, 4)

(3-補) 顧客に分かりやすい言葉

■時々思い出し、自らを省みる話

○職場でIT担当者が自分の役割を維持するのは簡単

＜自分に聞かれるような流れを作る＞

- 手順書や構成資料をドキュメント化しない
- やり方を同僚に教えない
- それらを求められても「忙しくて…」

(*)かつてネットワーク関係の雑誌に掲載されていた話を、記憶を元に再構成

<u>自ら「覚えるべきこと」を設定して、「大事」と価値づけて、「自分の役割」を創出していないか</u>

(3) 伝える内容を考える

■まとめると…

○基本的に自己満足でなく、学生ないし大学の環境を考慮し、ニーズ把握のトライ・アンド・エラーをし続ける

○「うれしい」と思ってもらえるテーマ、内容。

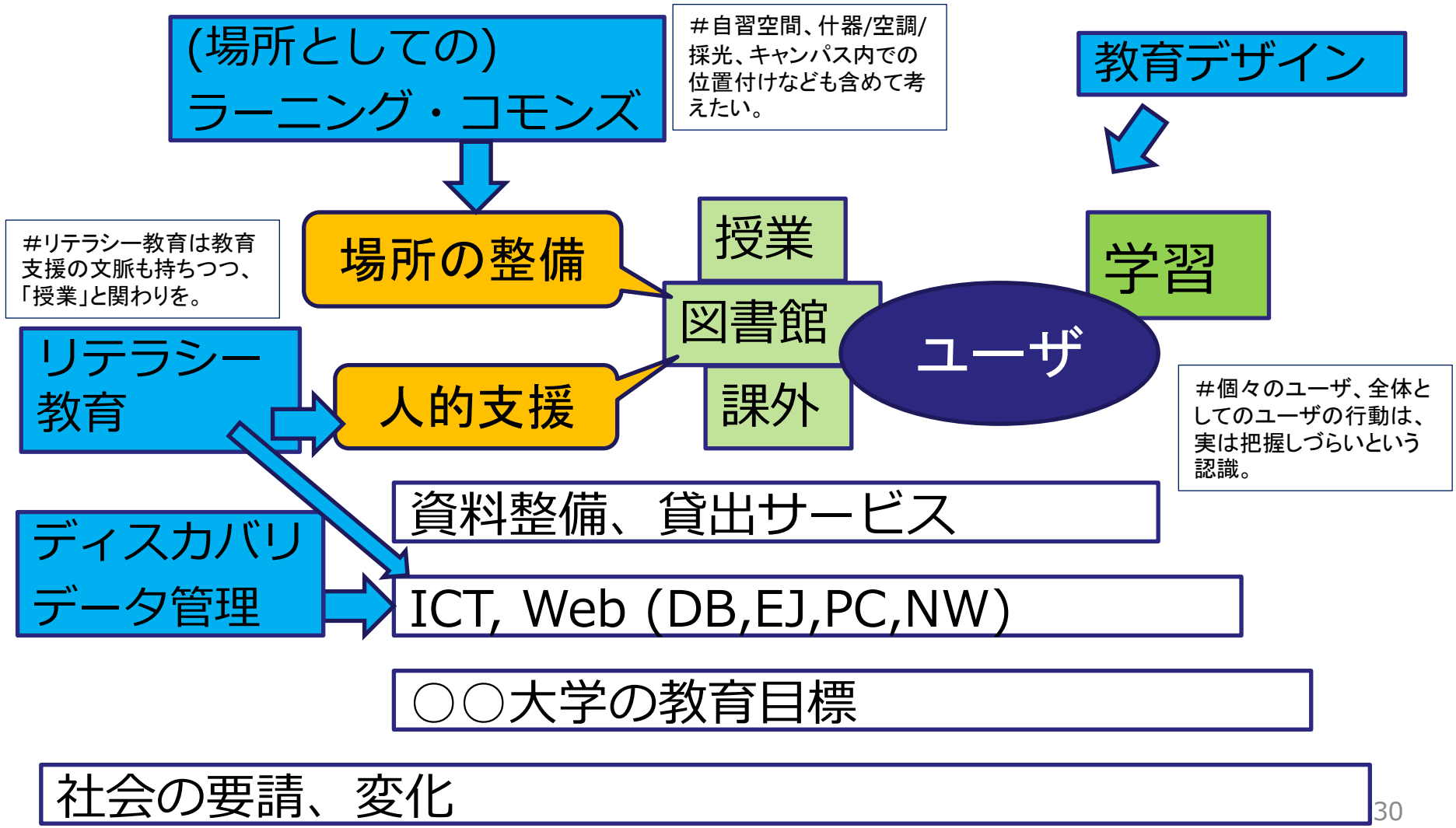
「常に問い直す必要」

※しかし…

・時間、職員という身分の制限

「時間を作る。仲間を作る」

(4) まとめ


(場所としての)
ラーニング・コモンズ
＃自習空間、什器/空調/採光、キャンパス内での位置付けなども含めて考えたい。
教育デザイン
場所の整備
＃リテラシー教育は教育支援の文脈も持ちつつ、「授業」と関わりを。
授業
図書館
課外
学習
ユーザ
リテラシー教育
人的支援
＃個々のユーザ、全体としてのユーザの行動は、実は把握しづらいという認識。
資料整備、貸出サービス
ディスカバリ
データ管理
ICT, Web (DB,EJ,PC,NW)
○○大学の教育目標
社会の要請、変化

(4) まとめ

■「教員との連携」が課題？

→ 何のために、何をしますか？

組織を一緒にする発想は？

■「スキルなどの引き継ぎ」が課題？

→「図書系」で異動？　３年で異動？

「学修支援系」の異動パターンは？

（中規模以上の大学図書館の場合）

(4) まとめ

■根幹だと思われる余談 (1)

○皆さんの悩みは

「リテラシー教育のマーケティング」？

・図書館活動のマーケティング？
・教育改革のマーケティング？
・普段から、数字やお客さんの行動を改善に反映？
・日常(閲覧、休館日等)でも期待に沿う行動を？

○「利用者」か「お客さん」か

・何らかの行動モデルを対象に求めていないか

(4) まとめ

■「合理的」とは

「目的」と「手段」の一致

○ なんの[誰の]ために

（　　）

○ なにを

（　　）

(4) まとめ

○部署を離れる時に、ご挨拶メールを送る教員等は何人いますか

○半年以内に、何か実現しましょう。改善しましょう。＜絶対！ 研修は何のため?＞

○情報リテラシー教育を再考するのは 誰？
＜状況は常に変わる＞

(4) まとめ

■皆さんへの期待
来週から、3, 6ヶ月以内に、自分がすること、目標とすることは、なに？

○来週から
（　　）

○３ヶ月以内に
（　　）

○６ヶ月以内に
（　　）

(4) まとめ

「心の温度」

どう維持するか。

そのための仕掛けを自分で作る。

(4) まとめ

■本講義の要点

「情報リテラシー教育の再考」

◆大学教育との距離の縮め方を考える

-- 顔の見える関係から問題意識・関心の共有 --

◆ユーザインタフェースを改めて考える

-- フロントにいる人も使われやすいデザインを --

◆学生に伝える内容を考える

-- 相手目線でトライ・アンド・エラーを --

(4) まとめ

■強引なまとめ

◆学内プレーヤーとの小さなつながり

◆説明不要のデザインをあなたが考える

◆各大学の状況、相手の目線を考慮

(4) まとめ・補

■過去の班別発表資料で問題点として挙げている班の数（2008年と2012年の対比）

※ざっとした計数です。

参加者数　１；７

連携　１；８

スキル等　４；８
人員　４；３

広報(周知)　２；５
ニーズ把握　２；４
マーケティング視点　２；１

内容　４；９

学生の関心、図書館に来ない　５；８

インターネット、電子資料の普及　１；１
大学内での位置付け　１；０
スタッフとの距離　１；０
図書館の熱意だけ　１；０
図書館資源の活用度　０；１
場所　０；１
シラバスや教育方針の理解　０；１

(4) まとめ・補

■近田先生の資料内、最近の学生の傾向が自分と重なっている？

受け身？　自分で考える！

「妥当性」

■「顧客目線」、「利用者中心」とは？

例えば、、、館内での昼寝はよい・悪い？

それはなぜ？

(4) まとめ・補

■皆さんの（狭義の）情報リテラシー

○パソコン、タブレット端末、スマホ

～画面デザイン、ユーザの行動、

情報リテラシー教育に影響

(*)「米IDCは、タブレットは世界市場で15年に出荷台数が…パソコンを超えるとみる」（2013.10.24 朝日新聞）

(*)スマホの出荷割合、年齢別の使用割合

○電子黒板

(4) まとめ・補

■教育（学修）環境のデザイン

例えば、

・ラーニング・コモンズを含めた図書館

・皆さんの（狭義の）情報リテラシー
　～電子黒板、タブレット端末～

・高校での教育環境
～電子黒板、タブレット端末、図書館利用、ライティング指導～

(4) まとめ・補

■根幹だと思われる余談 (2)

○職場での行動や思考の様式を変える

・控え目、評論家タイプなどと言われる
・同質的と言われる(国内の企業よりも)
・再考ないし再構成のスピード

※「類は友」「朱に交われば」……

・少し鈍感な（顧客目線を持った）出る杭に
・「反省するような奴は行動力がないから、新しいものができない」（「プレジデント」2013.11.4号、エステー会長の言葉）

(4) まとめ・補

■提供者目線の強さ（補足）

○2013.9.11付け朝日新聞　「図書館の未来」

「集客力、最大化で街に活気」

ＣＣＣ・図書館カンパニー社長、高橋聡さん

「日本十進分類法では『ベランダ菜園』の本が、産業→園芸→蔬（そ）菜園芸と分類される。菜園なのに産業ですよ。利用者のことを考えていない。新しい分類システムを作りました。変更後の『菜園』は趣味実用→園芸→家庭菜園です。」

（下線は引用者）

(4) まとめ・補

■マーケティングの点から（補足）

○2013.9.11付け朝日新聞　同記事

「武雄市がどこにあるのかも知りませんでした。本の仕事もしたことはないし、図書館にもほとんど行ったことがない。基本は図書館もツタヤの店舗を出店するのと同じだと考えました。まずは、市民が図書館に何を期待しているかを把握すること。数百人の対面調査を行い、ＣＣＣの発行するＴカードから武雄市と同規模の５万人の都市でどんな本やサービスが望まれているかを調べました。」（下線は引用者）

(本発表の参考資料)

(1) 久保山健. 図書館スタッフによる学習支援の実践：「プレゼン入門　話す基本技術」. 大阪大学高等教育研究. 1. 2013
http://hdl.handle.net/11094/24850

(2) 兵藤健志ほか. 大学図書館活用セミナーをリデザインする：インストラクショナル・デザインを意識した図書館ガイダンスの取り組み. 九州大学附属図書館研究開発室年報. 2011/2012. http://hdl.handle.net/2324/24952
学生の状況を考慮し、学習目標および動機付けをきちんと整理して実践している好事例

(3) 情報リテラシー研修で言えなかったこと。OPACという用語を段階的縮小へ (2012.12.1).
http://blog.goo.ne.jp/kuboyan_at_pitt/e/a503d2bbe4107af1bf5171579b2059aa

(4) 「OPACという用語を段階的縮小へ」の追記 (2012.12.31).
http://blog.goo.ne.jp/kuboyan_at_pitt/e/0878cf3d1b7ff08014f1a670963e3c2b

※本資料は、同じタイトルで10月18日に大阪大学会場で行われた天野絵里子氏の資料のアイデアを援用しながら作成した。

(ラーニング・コモンズに関する参考資料)

(11) 米澤誠. インフォメーション・コモンズからラーニング・コモンズへ：大学図書館におけるネット世代の学習支援. カレントアウェアネス, No.289. 2006.9.20

http://current.ndl.go.jp/ca1603

(12) 米澤誠. ラーニング・コモンズの本質：ICT 時代における情報リテラシー／オープン教育を実現する基盤施設としての図書館. 名古屋大学附属図書館研究年報. No.7. 2008.

http://libst.nul.nagoya-u.ac.jp/pdf/annals_07.pdf

(13) 永田治樹. 大学図書館における新しい「場」：インフォメーション・コモンズとラーニング・コモンズ. 名古屋大学附属図書館研究年報. No.7. 2008.

http://libst.nul.nagoya-u.ac.jp/pdf/annals_07.pdf

(14) 永田治樹. 図書館とインフォメーション・コモンズ：情報社会における共有資源. 情報管理. Vol.53, no.7. 2010.

(15)米澤誠.学びを誘発するラーニング・コモンズ. カレントアウェアネス, No.317. 2013.9　http://current.ndl.go.jp/ca1804

(情報リテラシー教育に関する参考資料)

(21) 久松薫子、西脇亜由子、矢野恵子. 「図書館活用法」プログラム評価活動報告. 図書の譜（明治大学図書館紀要）13. 2009

(22) 矢野 恵子、久松 薫子. 「図書館活用法」プログラム評価活動報告(2). 図書の譜（明治大学図書館紀要）15. 2011

情報リテラシー教育の評価活動の好事例

(学修支援に関連する答申等)

(31) 大学図書館の整備について（審議のまとめ）－変革する大学にあって求められる大学図書館像（平成22年12月 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm

(32) 上記の概要：
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1306126.htm

(33) 学士課程教育の構築に向けて（答申）2008(H20).12.24 中央教育審議会
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067_001.pdf

(34) 大学教育の分野別質保証の在り方について　2010(H22).7.22 日本学術会議
http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-k100-1.pdf

(35)「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」（審議まとめ）2012(H24).3.26 中央教育審議会大学分科会大学教育部会
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1319183.htm

(学修支援に関連する答申等)

(36) 学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）.
2013(平成25).8. 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/031/houkoku/1338888.htm

(参考) オススメ本

(41) 「『分かりやすい表現』の技術―意図を正しく伝えるための16のルール 」講談社ブルーバックス（1999/3)

オススメ

(42)「100円のコーラを1000円で売る方法」中経出版 (2011/11)

2時間くらいで読める軽い内容だが、マーケティングや企業価値のイロハを考えられる。

(43)「SEの勉強法」日本実業出版社 (2010/5)

システムエンジニアって関係ないと思ったら大間違い。仕事の進め方、まとめ方を解説。兄弟本もあり。

(44)「学びの空間が大学を変える」ボイックス株式会社; 初版(2010/5)

どちらかと言うと空間や設備論？　しかし、大事なポイント。

(45) 新聞（一般紙、日経新聞)